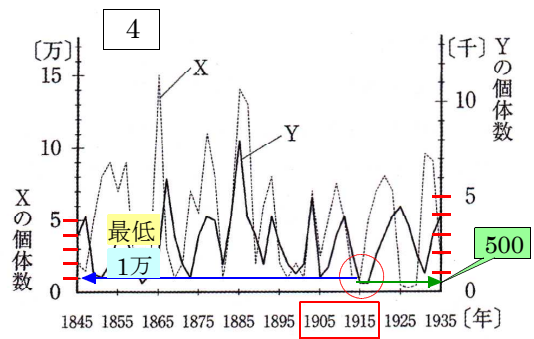
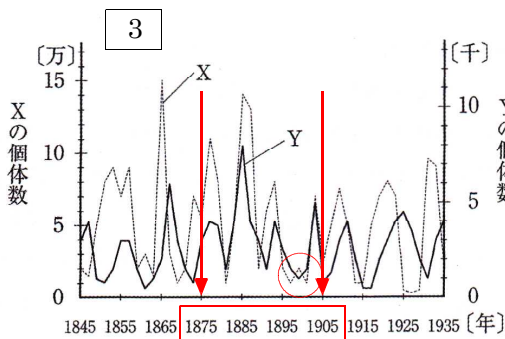


✕ 個体数が最大になった年は、XとYどちらも1855年から1875年の間である。

✕ 1875年から1905年の間について、Xの個体数が最大になった年はYも最大となっており、その年のYの個体数はXの個体数の半数以上となっている。



③ 1875年から1905年の間について、毎年の個体数を比べると、Xの個体数はYの個体数を常に上回っている。

✕ 1905年から1915年の間について、Yの個体数が最小となった年はXも最小となっており、その年のXの個体数はYの個体数の2～3倍の範囲にある。